令和2年7月豪雨犠牲者追悼式

あの日から1年 復興を誓う

経験したことのない大雨が襲った、あの日から1年。7月4日(日)、つなぎ文化センターで令和2年7月豪雨犠牲者追悼式が開かれました。ご遺族や関係者など31人が出席。黙とうや献花をして犠牲者の冥福を祈りました。

山田町長は「経験や教訓を後世に伝え、災害に強いまちづくりを行う」、木村敬副知事は「誰一人取り残さないという強い思いを胸に、被災地の創造的復興と心の復興に取り組んでいく」と式辞を述べました。町内で犠牲となられた丸橋ミチ子さんのおいの福浦昌則さん（芦北町）が捜索に携われた皆さまに感謝を述べられ、故人の孫の丸橋弘幸さんのメッセージを代読されました。ご遺族は「ちょうど1年となるときに熱海市で災害が発生し、同じ思いをする人がいると思うとつらい。これ以上被害が大きくならないようにと思う」と声を詰まらせました。

【写真説明】 1_平国地区の土砂崩れ現場で消防団員が黙とう／2_ 4_つなぎ文化センターと平国地区で献花台を設置。参列者は花を手向け、手を合わせた／3_ 式辞と遺族代表の言葉では、追悼の意やご遺族へのお悔やみ、被災された皆さまへのお見舞いを述べ、多くの支援に対する感謝とともに、復興への決意を新たにした

町長式辞

山田 豊隆 町長

災害に強いまちを築き、未来へつないでいく

この豪雨災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族、ご親族、関係者の皆さまに対しまして改めて哀悼の意を捧げます。福浜地区では、1世帯3人でお住まいの家屋へ土砂崩れによる人的被害が発生し、柳迫、宇戸、中尾地区では、民家の裏山が地滑りし、9世帯24人が避難指示発令で、現在も仮設住宅で慣れない生活を余儀なくされております。

豪雨は町内全域で家屋、ライフラインのみならず、住民の心にも大きな傷を残しました。災害の恐ろしさをまざまざと体感したと同時に、同じような災害が二度と起こってはならないと強く心に誓ったところであります。

発災直後から、国や県、警察、消防、自衛隊、各自治体からは多くの人的派遣をいただき、行方不明者の捜索や復旧·復興業務を進めることができました。消防団では、深夜から早朝にかけ、浸水が迫る中、住宅一軒ずつを声掛けして避難誘導を行い、床上浸水したところはボートで救助するなど、その行動は多くの命を救いました。

復興には時間がかかっていくと思います。私たちは災害の経験や教訓を後世に伝え、復興への誓いを新たに、災害に強いまちづくりを行い、この豊かな自然と歴史·文化に包まれたまちを未来へつないでいくため、この令和3年を復興元年として、皆で頑張ってまいります。

（一部抜粋）

遺族代表の言葉

福浦 昌則 さん
（芦北町）

※埼玉県在住の丸橋弘幸さんが新型コロナウイルスの影響で参列できなかったため、福浦さんが代読。

（丸橋弘幸さんからメッセージ）

同じ悲しみが二度と繰り返されないように願う

私は昨年の7月4日午前4時22分に父から「どこか崩れたのか、裏の畑の道路から水が流れて家の周り水浸し。」と写真付きでメールを受け取りました。早朝で私の住んでいた地域では雨も降っていなかったのでその時は気付かず、6時ごろに起床し慌てて電話をかけましたが、そのメールを最後に二度と連絡はつきませんでした。裏山が崩れ、祖父母と父3人が家ごと土砂に押し流され下敷きとなったのです。どうしようもできず不安でいっぱいだったことを覚えています。

すぐに津奈木に向かい、自分の生まれ育った家が跡形もなく崩れ、大量の土砂と杉の木で埋まった異様な光景が目に入りました。地元消防団をはじめ、自衛隊、県警機動隊、緊急消防援助隊など県内外からの毎日200人を超える方々が昼夜を問わず、懸命に捜索いただいたおかげで、家族全員がそろうことができました。捜索に協力してくださった方々には感謝してもしきれません。

残された家族、親族一同、故人の思い出を胸に丸橋家を受け継いでまいります。最後に、令和2年7月豪雨でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、いまだに行方不明となっている方の一刻も早い発見と、同じ悲しみが二度と繰り返されることのないように願い、津奈木町および人吉球磨、八代、芦北の一日も早い復興、復旧を心からお祈りします。

（一部抜粋）